

議論を重ねて

シリーズ・パウロ 第14回

使徒言行録 15章

異邦人の律法問題

- 使徒たちの宣教により、クリスチャンが増えていった(ユダヤ人・異邦人)
- 異邦人クリスチャンも、ユダヤ人のようにモーセの律法を守るよう教える人がいた
 - キリストの贖罪死により、行いではなく信仰によって救われる、とパウロは教えていたが...
- 律法厳守派は異邦人教会に出向いて自分たちの主張を押しつけていた

取られた解決策

- 律法厳守派とパウロたちの間に「激しい意見の対立と論争が生じた。」
- 本部教会(エルサレム)で、使徒や長老たちと協議することになった
- ファリサイ派出身の信者が「異邦人にも律法を守るよう命じるべきだ」と明言した
 - パウロはファリサイ派の出身者！
- キリスト教会初の公会議が始まった

エルサレム会議

- まず十分な議論が行われた
- ペトロが立ち上がり意見を述べた
 - 異邦人も信仰によって清められた(罪赦された)
 - 異邦人に律法を守らせる必要はないのでは
- パウロらが異邦人伝道の報告をした
- (主の兄弟)ヤコブが結論を出した
 - 旧約聖書を引用して発展的な解決策を提案する
 - 異邦人は律法を守らなくて良い、と決断する

意見の対立

- クリスチャンでも意見の食い違いは起こる
 - 何でもかんでも受け入れることが愛ではない！
 - 神の前にすべての人は平等である
- 意見の対立は真剣に考えている証拠
- 「違い」を「間違い」にしない
 - どちらが正しいかすぐに決めつけない
 - 意見が違ってても「敵」ではない
- 相手の考えを十分に聞く努力こそ愛！

議論を重ねる

- 冷静に話し合える場を持つ
 - 感情的になっているときは避ける
 - 内容によっては会議や集まりで
- 自分の考えをできるだけ正しく伝える
 - 「どうせ聞いてはくれないだろう」と決めつけない
 - 問題になっていることだけに集中する
 - 相手の人格や存在を傷つけたり否定したりしない
- 第三者の考えに耳を傾ける

多様な意見から生まれる成長

- 神は教会(人間)に判断を委ねられた
 - エルサレム会議でも誰一人「神のお告げを」持ち出していない
- 受け入れることから始まる成長
 - 「信仰の弱い人を受け入れなさい。その考えを批判してはなりません。」 <ロマ14:1>
- 対立・議論・一致によって成長する
 - 「キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、…、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。」<エフェソ4:16>